

## 初市式挨拶

令和八年の輝かしい年頭に当り、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆様方には早朝より、また、遠路ご多用の中を、ご参列賜りまして、誠に有難うございます。

昨年、国内の経済面では、企業の景況感は大企業を中心として維持され、日経平均株価も史上最高値の更新が続くなど、安定した基調にありました。しかし、原材料費や人件費などコストの上昇に加え、少子高齢化が背景の2025年問題による社会保障費の増加や深刻な労働力不足も顕在化しており、先行きの不透明感はむしろ増しています。

地元長崎におきましては、景気も緩やかに回復しているとされてはおりますが、「コスト・プッシュ・インフレ」による物価高、人口減少による慢性的な人手不足など不安要素も残っております。

そのような中、V-ファーレン長崎がJ1昇格を果たしたことで、地元に大きな感動をもたらし、今季以降の経済波及効果に期待しているところでございます。

このような状況の中で、昨年度の、長崎魚市場の総水揚げ高は、数量 11.1万トン、金額 332.9億円でございました。このうち当社の取扱い、数量 11.0万トン（前年比94%）、金額 319.4億円（前年比 104%）でございました。近海、沖合物では、主力のカツオ漁は、高水温による漁場の変動の影響で、例年よりも遅いスタートとなりました。そのため、漁獲量は減少しましたが、好調な相場に支えられ、金額では前年を上回る結果となりました。

養殖物では、夏場の高水温の影響で、取り扱いを減らした魚種もあったものの、養殖ハマチに関しては加工向け販売が好調で、売り上げを大きく伸ばしました。

大中型旋網におきましては、春先のブリ漁では、水揚げは前年並みであったものの、鮮魚・加工向けともに引き合いが強く、金額では前年を上回りました。夏場のアジ漁は台風・熱帯低気圧の影響等で操業できない期間があり、思うような水揚げはできませんでした。

小網物に関しましても、餌料用イワシ類の水揚げが前年に比べ減少し、またアジ類・サバ類も魚体の小型化により単価安になったことで、数量・金額ともに前年を下回る結果となりました。

平成二十三年から続いておりました高度衛生化施設整備事業も、昨年完成した活魚棟の完成でひと段落いたしました。現在は新規で配送用作業施設が計画されております。ハード面では順調に整備が進んでおりますが、ここ長崎魚市場でも、人手不足と高齢化が深刻化しております。特に水揚部門において顕著で、水揚作業に必要な労働力は、この二十年でほぼ半減いたしております。

県当局とも密に連絡を取りながら、引き続き解決に向け努力してまいります。

今年も厳しい一年となることが予測されますが、行政及び関係各位の皆様方には、引き続きまして一層のご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げる次第でございます。

結びに、今年の皆様方の、ますますのご繁栄とご多幸、そして海上での安全操業を、心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

令和八年一月五日

長崎魚市株式会社 代表取締役社長

多田 聖一